試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

2022年度　郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部
一　般　選　抜　Ⅱ　期
個　別　学　力　試　験　問　題

国　語

（国語総合）

注　意　事　項

1　試験中に問題冊子の印刷不鮮明，ページの落丁・乱丁等に気付いた場合は，監督者に知らせてください。

志願番号		氏　　名	

解答は、すべて解答用紙に記入すること。

問題Ⅰ　次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

どんな無人島にも、それぞれ興味のある歴史がある。

むかしは人が住んでいた、という島ももちろん多い。無人島だと思われているが、じつはひっそりと人が住んでいる、という小さな島も点々と瀬戸内海にはあった。

ほんとうの名前はほかにあるのだが、そういう島はそろって、（A）コヤセシノギとかコンキュウ島と呼ばれていた。

山口県柳井市の遥か沖合にある小島の名前をたずねてそう答えられたときは、耳を疑い、何度もきき返したものである。字を教えてもらって、ますます①フクザツな気もちになった。子痩せ凌ぎに、困窮だというのだ。しかも、大島郡に属すその島のほんとうの名前は大水無瀬島（おおみなせじま）というりっぱなものなのである。

教えてもらった字を眺めてうすうす見当がついたが、大水無瀬島は、子どもが大きくなるまでの、しのぎの島なのだそうだ。近くの大きな島に住む人びとのなかで、特に貧しい家族がここに逃れて困窮をしのぐ、一種の出島なのだという。

子どもが多いと、生活が苦しい。そこへ親戚づきあい、近所づきあいで冠婚葬祭の義理もひとなみに果たし、共同体への貢献も落度なくこなそうとすれば、義理の出費はかなりかさむ。その出費に耐えられない人たちが、こうした島に移住して、世間体を構わない耐乏生活を送る。そしてできるかぎり貯金し、耐久力をつけて本島へ帰る、という風習だった。

大水無瀬島ばかりでなく、あちこちの小島がこの役割を果たしていたということだが、その大水無瀬島でコヤセシノギの生活を送っていた最後の一家が島を去り、ついに正真正銘みかけ通りの無人島になったときいて、撮影に行った。昭和三十七年夏のことである。

いやに正確に日づけを書くのは、（B）日本の社会の大きな変化と②軌を一にしているかもしれないと思うからで、とにかくそのころいっせいに、あちこちの出島が困窮島から無人島に戻っていたのである。

大水無瀬島にわたってみると、深い草むらのなかにぜんぶで十八の、ほとんど崩れ朽ちた掘立小屋のあとがあり、最後のひとつも草に埋も

れようとしていた。前の年、島を去った家族の住んでいた家である。

みたところ、前に立ちのいた人がのこした空き家を再利用するのではなくて、そのつど新しく建てるようだった。誰も、また利用できるほど長もちする小屋を建てなかったのだと思う。いっときの、ほんの仮り住まい、と思わなければ堪えられなかったのではないか。どのくらいの数が同時に住んでいたかはわからないが、いちどきに何世帯もはいなかったようだ。

というふうに③曖昧なのは、困窮島での生活を語ってくれる人がいなかったからである。島にいた、と明かしてくれる人にも会えなかった。その後、みんな都会へ行ってしまったのである。

島で唯一、目立ったのは神社の廃墟だった。昭和七年に、当時のお金で二千円かけてつくったという小さな神社。それが、溝口健二監督が大喜びで『雨月物語』のセットに使いそうな具合に、ものすごい④ギョウソウで荒れ朽ちていた。

それにしても、共有の財産としてただひとつつくったものが、生活のためのインフラやライフライン的なものでなく、神社だったとは・・・。

これらの島への移住は、経済的理由だけでなく精神的な、修行の意味もあったのかと崩れた神社を眺めながら考えた。子痩せというが、子どもがいくつぐらいのときに逃避するのか。学齢期に達した子がいる場合はどうしたのか。第二次大戦中の学童疎開の逆で、子どもは本島を動かず、豊かな食事を与えてくれる親戚から学校に通って、親だけが移住して食うや食わずの自給生活をした、ともきいたが、おそらくさまざまな形態があったのだろう。

そんな子痩せ凌ぎの困窮島が、ついにいっせいに無人島に戻っていったのはめでたいことのように思えるが、本島の古老たちにきくと、それは若い世代が親たちの住む島を大事に守って生きようとしないで、すぐ見限って都会に出て行くようになったからだ、(C)けっしてめでたくなんかない、ということだった。

これらの島の無人島化は、日本の社会の核家族化と同時進行していたのである。というより、もともとコヤセシノギの生活とは核家族をつくることだったのだ。都会に住みさえすれば大っぴらに核家族になれるとなると、こうした小島の利用価値はなくなるわけである。

してみると、(D)さしずめ東京などは巨大なコヤセシノギ島なのだ。もともと、江戸の長屋というのは、ほとんどが核家族だったということだから、何もいまはじまったことではないのだろう。

しかし、江戸の長屋にはツキアイがあった。それぞれはあちこちから吹き寄せられてきた核家族であっても、やがて藤沢周平がそこを舞台

に描いた⑤市井小説のような、濃厚なツキアイが生まれた。どこの都会でも、当時からそれは同じであったろう。

（E）都会というコヤセシノギ島の、さらに先の出島はどこなのだろうか。

いまはまた、国際社会でのツキアイを嫌えば、逃避する出島が要る。どこかにあるだろうか？

無人島というのは、人の世の仕組みについて、しみじみ考えさせる場所なのである。

（吉田直哉『発想の現場から―テレビ五十年二十五の符丁（キーワード）』文春新書　二〇〇二年　一部改変）

【注】

溝口健二（一八九八～一九五六）映画監督。サイレント映画時代から活躍し、第二次世界大戦後、「西鶴一代女」「雨月物語」「山椒大夫」がベネチア映画祭で連続受賞して、海外でも高い評価を得た。

藤沢周平（一九二七～一九九七）小説家。江戸時代を舞台に、庶民や下級武士の哀歓を描いた時代小説を多く執筆した。

【一】傍線部①～⑤の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書きなさい。（各二点）

【二】二重傍線部（A）「コヤセシノギとかコンキュウ島と呼ばれていた」とあるが、なぜこのように呼ばれるようになったのか。本文中の言葉を使って答えなさい。（六点）

【三】二重傍線部（B）「日本の社会の大きな変化」とあるが、この時代の日本の社会にどのような変化があったと考えられるか。本文を参考にして答えなさい。（六点）

【四】二重傍線部（C）「けっしてめでたくなんかない」とあるがそれはなぜか。本文中の言葉を使って答えなさい。（六点）

【五】二重傍線部（D）「さしずめ東京などは巨大なコヤセシノギ島なのだ」とあるが、なぜこのようなことが言えるのか。本文中の言葉を使って答えなさい。（六点）

【六】二重傍線部（E）「都会というコヤセシノギ島の、さらに先の出島はどこなのだろうか」とあるが、なぜ筆者は「さらに先の出島」が必要になると考えたのか。本文中の言葉を使って答えなさい。（六点）

問題Ⅱ　次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

それにしても、いったいなぜ、このように生物学的な視点から教育についての①論考をしたためねばならないのでしょう。

それは教育学者である私が接してきた教育についての議論に納得がいかないことが多かったからです。（A）教育に関して「あたりまえ」のように議論されていることの多くが「あたりまえ」と思えなかったのです。そして自分なりに納得のできる教育についての説明や理解が、これから論じていこうとする生物学的な根拠からもたらされたものだったからです。

私は大学の文学部で教育学を学び、いま教育心理学者として大学に勤め、人間の心理や行動の②ハッタツに及ぼす遺伝と環境の関わりを明らかにするために、行動遺伝学という領域の理論と方法に根差した研究に長年たずさわって、大規模なふたご研究を続けています。また同僚や知り合いにはいろいろな分野の教育学関係者がいて、日ごろから公に私にふれあい、教育についての議論をしてきました。その中で納得のできなかったことの一つ目は、（B）教育は何のためになるのかという問いです。

私の学部時代の先生からは「子どもをよくしようとするため」と教わりました。法律には「人格の完成」などと書かれ、また教育学者は「人間形成」とか「社会化」とかいいます。しかし私にとっては、そのいずれもが③抽象的で中身のよくわからない、何やら実現不可能な理想をほのめかす大風呂敷であるように感じられました。たぶん世の中では誰も学校に行くとき「さあ、きょうもよりよい人間になるぞ」とか「人格完成に近づこう」とかとは思っていないでしょう。むしろ「よい学歴を得るため」「よい④セイセキをとる（あるいは落ちこぼれない）ため」という利己的な目的のようにしかとらえられていないように思われます。

しかし、もし教育が進化の過程で⑤獲得されたとすれば、それはヒトの生存と繁殖に関わるストラテジーだということになります。つまり教育は人間を「よくする」ためではなく、それ以前に「生きるため」「生き延びるため」、そして「命をつなぐため」に生まれたということになります。もしこのことが正しいとするならば、教育は「人格完成」や「人間形成」ではなく、生きるうえで使う必要な知識を学習するためにあるはずです。また「社会化」することも、それ自体が教育の目的なのではなく、ヒトそれぞれが、いま生きている社会の問題を解決することによって、自分も生きやすくするためにあることが明確になってくると思われるのです。

人間は生きるための知識を自分一人でため込み、自分のためだけに使うのではなく、他者と共有しながら使います。さらにヒトの利他的な性質から、他個体の生存のためにそれを使わざるを得ません。そのためにヒトという生物は教育という、かなりコストのかかる学習ストラテジーを進化の過程で獲得したのではないかと考えられます。ですから教育の本来の目的は、人格形成といった抽象的な目的や、自分のためなのではなく、他者のため、他者と共に生きるためにあるということになります。

これは「勉強は他人（ひと）の役に立つためにしなければなりません」などという道徳的なお題目ではなく、科学的な事実です。（C）あなたがどんなに利己的な目的で勉強し、またそれを促されるような教育を受けたとしても、そこで学んだことが結果的にはいやおうなく他者のために使われてしまうのです。そしてその使い方が私たちの社会を作り、翻（ひるがえ）ってその社会の中で生きる私たち一人ひとりの生き方を規定していってしまう。そういう機能を、教育は、その生物学的な成立条件から、必然的に果たしてしまっているのだということに気づかされます。

（安藤寿康『なぜヒトは学ぶのか：教育を生物学的に考える』講談社　二〇一八年　一部改変）

【一】傍線部①～⑤の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書きなさい。（各二点）

【二】二重傍線部（A）「教育に関して「あたりまえ」のように議論されていることの多くが「あたりまえ」と思えなかった」とあるが、筆者が納得できなかった点を、本文中の語句を用いて具体的に答えなさい。（八点）

【三】二重傍線部（B）「教育は何のためになるのか」について、この問いに対する筆者の答えは二つの要素から成り立っている。それぞれの要素に関して一か所ずつ、本文中から抜き出して答えなさい。（各四点）

【四】二重傍線部（C）「あなたがどんなに利己的な目的で勉強し、またそれを促されるような教育を受けたとしても、そこで学んだことが結果的にはいやおうなく他者のために使われてしまう」とあるが、これはなぜか。本文中の語句を用いて答えなさい。（八点）

【五】次の選択肢のうちから、本文の主張と合致する内容のものを全て選び、記号で答えなさい。（六点〔完全解答のみ〕）

ア　教育は「よくなろう」とする人のためのものであり、「よくなろう」と思っていない人には無意味である。

イ　教育はヒトが進化する過程で得たものであり、それはヒトが生き、命をつなぐためにある。

ウ　教育はかなりコストのかかる学習ストラテジーであるため、いずれ社会の中からなくなる。

エ　知識は一人でため込むものではなく、他者と共有することで意味を持つものである。

オ　学校教育において「人格の完成」がなされることは必要であり、生徒は「人格の完成」を目指すことをいつも意識している。

【六】本文の主張を踏まえ、教育を受けることの意義について、あなたの考えを二〇〇字以内で書きなさい。（二十点）

解答用紙

二〇二二年度　郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部
一般選抜Ⅱ期　個別学力試験

国語（国語総合）

氏名	志願番号	得点

問題Ⅰ

【一】	【二】	【三】	【四】	【五】	【六】
①					
②					
③					
④					
⑤					
10点	6点	6点	6点	6点	6点

問題Ⅱ

【一】	【二】	【三】		【四】	【五】
		要素①	要素②		
①					
②					
③					
④					
⑤					
10点	8点	8点		8点	6点

【六】

20点

二〇二二年度　郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部
一般選抜Ⅱ期　個別学力試験

国　語（　国語総合　）

氏名

志願番号

解答用紙

二〇二二年度　郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部
一般選抜Ⅱ期　個別学力試験

国　語（　国語総合　）

氏名	志願番号

得　点

問題Ⅰ

【一】	①	複雑
	②	き
	③	あいまい
	④	形相
	⑤	しせい
【二】	（例一）子どもが多くて、生活が苦しく、冠婚葬祭や共同体への貢献などの義理の出費に耐えられない人たちが、こうした島に移住して、世間体を構わない耐乏生活を送ったため。 （例二）貧しい家族がこれらの島に逃れて困窮をしのぐから	6点
【三】	（例）高度経済成長により、労働力が大量に必要になったため、都市に人口が集中するようになった。	6点
【四】	（例）コヤセシノギの出島に行くということは、親たちの住む本島を大事に守ろうという考えがあるからで、出島ではなく都会に行くことは本島を見限ることだから。	6点
【五】	（例）もともとコヤセシノギの生活とは核家族をつくることであり、都会に住みさえすれば大っぴらに核家族になれるということなら、東京に住むことはコヤセシノギの出島に住むことと同じになるから。	6点
【六】	（例）都会であってもツキアイはあり、そこでの義理の出費に耐えられない人たちが出てくるかもしれないと考えたから。	6点

問題Ⅱ

【一】	①	ろんこう	10点
	②	発達	
	③	ちゅうしょう	
	④	成績	
	⑤	かくとく	
【二】	（例）「よりよい人間になる」あるいは「人格を完成させる」ために教育をするということ		8点
【三】	要素①	（例一）「生きるため」「生き延びるため」、そして「命をつなぐため」 （例二）生きるうえで使う必要な知識を学習するため	8点
	要素②	（例一）いま生きている社会の問題を解決することによって、自分も生きやすくするため （例二）他者のため、他者と共に生きるため	
【四】	（例一）ヒトには利他的な性質があり、他個体の生存のために自らが獲得した生きるための知識を使うから。 （例二）生きるための知識は自分一人でため込み、自分のためにだけ使うのではなく、他者と共有しながら使うものだから。		8点
【五】	イ・エ		6点

【六】

採点のポイント
・テーマ「教育を受ける意義」に合った内容か。
・常体と敬体が混在していないか。
・話し言葉になっていないか。
（ら抜き言葉、違かった、「なので」始まり等）
・誤字／脱字はないか。
・文字数は適切か。（一五〇～二〇〇字）

20点

二〇二二年度　郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部
一般選抜Ⅱ期　個別学力試験

国　語（　国語総合　）

氏名

志願番号